

1. 調査報告概要表

作成日 #####

【評価実施概要】

事業所番号	3171600269
法人名	社会福祉法人 寿耕会
事業所名	チロルの里 グループホーム
所在地 (電話番号)	鳥取県日野郡江府町大字久連7番地 (電話) 0859-75-2126
評価機関名	有限会社 保健情報サービス
所在地	鳥取県米子市西福原2-1-1
訪問調査日	平成20年7月22日

【情報提供票より】(20年 6月 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16年 11月 1日
ユニット数	1 ユニット
職員数	9 人
	常勤 7人, 非常勤 1人, 常勤換算 8人

(2) 建物概要

建物形態	(併設) / 単独	(新築) / 改築
建物構造	木造造り	
	1階建ての	階 ~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	12,000 円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1000 円	

(4) 利用者の概要(6月 日現在)

利用者人数	9名	男性	3名	女性	6名
要介護1	2名	要介護2	4名		
要介護3	3名	要介護4	名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 82歳	最低	69歳	最高	91歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	日野病院 江尾診療所
---------	------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

大山の麓を流れる清流日野川のそばで天目木と銀杏並木に囲まれたグループホームである。既に開設されていた特別養護老人ホームに併設の形で平成16年11月に認知症型デイサービスと棟続きに開設。「認知症になっても住み慣れたこの町で家庭的な雰囲気の中で普通の暮らしを支援していく」という理念のもと江府町の老人福祉施策の拠点としての役割を担って地方行政と共に日々勉強会や自己評価をおこないサービスの質の向上に意欲的に取り組んでいる。特にスタッフの移動もなく、落ち着いた時間が流れている。月2回の音楽療法など取り入れ、同じ目線での会話や声かけを心がけながらさりげないケアがなされていた。在宅でデイサービスを利用し、段階的に入所に移行するなど住み替えにも配慮され遠方に住む家族等からも信頼されている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	地域交流について、小学校との交流は定着し、利用者数名でお礼訪問も行なうなど相互交流もできつつある。地域の行事に数多く参加したり、なじみの美容院や診療所の待合室での地元の人々との交流もある。終末期ケアについては法人より事業所に一任するとの回答を得て、受け入れる方向に取組が始まっている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価の結果をもとにミーティングで話し合ったり、運営推進会議で議題に取り上げたりして改善にむけた取り組みをしている。今回も項目ごとに職員に分配し、自己評価している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	二ヶ月に1回開催されているがテーマが乏しく実りがないのが実情。認知症を知って理解してもらえるチャンス、利用者の参加や家族が複数参加できるような工夫をして家族の意見を出しやすくする配慮や、「防災の協力」などテーマを決めて行政や地域の多くの方に参加の声かけをして、理解と支援を得るために会議が活用できることを期待します。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	居室担当を決め、利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理など月に1回確実に報告し、些細な事でも随時報告している。また家族が訪問時にはケアプランを確認してもらい意見をいただいたり、毎月定期的な家族を誘っての外出企画(毎回4家族ほどの参加)、家族が意見を出し易い雰囲気作り・関係作りを努めている。家族の意見や苦情などには前向きに対処されている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	更に地域の方に立ち寄ってもらえる施設となるため、ホーム独自の地域向け広報誌(チラシ)に行事予定日とお誘いの言葉を書き込み、定期的に商店・美容室・診療所などに配布してみようかと考案中。避難訓練の参加など運営推進会議でも協力を呼びかけるなど努力を続け、地域住民等との心の架け橋ができることを期待します。

2. 調査報告書

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「家庭的な雰囲気の中で その人らしい普通の暮らしを支援します」と言う事業所独自の理念を掲げ、日々のケアに専念されている。	<input type="radio"/>	住み慣れた地域生活の暮らしの継続を支援する「地域密着型サービス施設」として 理念のみなおしに取り組んでいる。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム内のよく見える位置に理念を掲示し、月に一度のミーティング特に年頭にはその取り組みについて職員全員で確認している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	小学校との交流は定期的であり 卒業前にアルバムフレームの手造り作品を届けたり、頂いた花の苗が成長して満開に咲いた写真を届けるなど利用者がお礼訪問も行なっている。今年は地域の行事に数多く参加する事が出来た。なじみの美容院や診療所の待合室での地元の人々との交流もある。	<input type="radio"/>	ホーム独自の地域向け広報誌(チラシ)に行事予定日とお誘いの言葉を書き込み 定期的に商店・美容室・診療所などに配布してみようかと考案中との事、取り組みに期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価の結果をもとにミーティングで話し合ったり、運営推進会議で議題に取り上げたりして改善にむけた取り組みをしている。今回も項目ごとに職員に分配し、自己評価している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行政との話し合いの中で、3~4ヶ月に1回程度開催する事となった。サービスの現状や取り組んでいる事等発表し、認知症について理解して頂ける場として意見を積極的に聞くよう努められている事が伺えた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホーム入居者の多くは独居者である事から、各種通知書がホームへ届き、その都度担当者と連絡取り合い小さな悩みも相談している。また今年度は「口腔機能の改善」が町の方針で定期的に言語聴覚士が派遣され指導を受けたり、行政から認知症についての講習会の開催時、講師としての打診も頂くなど、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	居室担当者を決め、利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理など月に1回確実に報告し、些細な事でも担当者から随時報告している。また家族が訪問時にはケアプランを確認していただき、意見を頂く等している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱には意見等はない。相談窓口は掲示してあり、苦情があった場合にはミーティングにて話し合いを行なっている。毎月1回定期的に家族を誘って一緒に外出を企画している。毎回家族の参加があり、家族が意見を出し易い雰囲気作り・関係作りに努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は極力しないようにしている。新人を採用する場合もボランティアで参加してもらい慣れてから仕事についてもらっている。利用者へのダメージを防ぐ配慮が伺えた。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の能力の段階に応じた研修への参加を促している。また 参加したい研修へは積極的に参加できるように勤務体制を整えるよう配慮し働きながらのトレーニングしていく事を進めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は他の事業所等の管理者との話し合いや意見交換の機会がもてるようになった。相互研修についても定期的に交流が持てるように努められている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	殆どの利用者が併設の認知症対応型通所介護を経てグループホーム入所となっている。通所を利用中にホームに遊びにきてもらい、職員や他の利用者・場の雰囲気に徐々に馴染んでもらってから ゆるやかに開始時期を決めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	調理を一緒に行ないながら花人参の切り方を教わったり、生け花の花入れを一緒にさせてもらう等、日頃共に過ごす時間を多く持ち、人生の大先輩方から多くを学びお互いが協働しながら和やかな生活ができるよう場面作りや声かけを行い、支えあう関係を築いている事が確認できた。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	「私(利用者)の支援マップシート」を作成する等、生活の様々な場面において本人の意向を把握するように努めている。家族が訪問された機会をのがさず家族の意向も確認、カンファレンスで利用者本位にできるよう検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	遠方の家族が多く、全員集まることは困難。かかりつけ医とは受診同行した際に医学的な助言をいただき、また随時、家族や関係者と話し合いや調整を行ないそれを介護計画に反映させて作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月のミーティングや居室担当による家族や関係者の意見などを取りまとめ、3ヶ月毎にモニタリング(分析・評価)を行ない定期的に介護計画の見直しを作成している。変化が生じた場合は関係者の意見を取りまとめミーティングを行い、現状に即した新たな計画でケアを実行している。	○	かかりつけ医の助言も反映した計画書の作成、介護の経過が明確になるよう、更なる取り組みに期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の要望に応じ通院や特別な外出などの支援や終末期の対応に柔軟な支援をするよう努めている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	なるべくかかりつけ医への受診を支援している。家族が付添い出来ない利用者は、かかりつけ医に受診同行し、適切な医療を受けられるよう複数の医療機関と関係を密に結んでいる。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	かかりつけ医の夜間往診や家族の協力をうけて看取りを体験した。今後の終末期ケアについて法人より事業所に一任するとの回答を得た。行政の方針との兼ね合いもあり、現在検討中である。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	認知症ケアの心得を職員トイレ等にも掲示したり、日々ミーティングで話し合い、個人の誇りやプライバシーの確保の徹底に努めている。現場の対応も穏やかにされていた。記録類の保管や個人情報の保護についても管理がなされていた。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの体調に配慮しながら、その日、その時の本人の気持ちを尊重して、外出したい方にはそっと寄り添うように、できるだけ個別性のある柔軟な支援がなされていた。ホーム全体の雰囲気やゆったりと感じられた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理・盛り付け・食器配り・食器洗いなどそれぞれの能力にあった役割で個々の力を引き出す配慮がなされていた。特に男性入居者がお吸い物をお碗に注ぎ分けている様子は自信と喜びを感じているような表情であった様に見受けられた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	男性の日・女性の日の設定がある。仲良し女性同士二人で毎回 安心して入浴を楽しめるような支援をしている。利用者の要望を聞き出し、もっと入浴が楽しみになるような取組みを考案中。又、排泄の失敗などの場合はタイミングに合わせて柔軟に支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の希望や生活歴を踏まえ、食事の準備・後片付けの役割や花の水遣り、手芸、喫煙を楽しむ支援、裁縫などの楽しみごと、気晴らしの支援が一人ひとりになされている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	行きつけの美容院、おやつのお買物など希望をつのり随時の外出支援や季節を肌で感じてもらえるように毎月定期的にドライブを兼ねた食事会も実施している。また日に何度でも外出したい方にも柔軟に穏やかに外出支援を行っている。		
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関のすぐ近くに居間があり、見守りが自然体で行われ言葉によるロックなども見られない。天気の良い日には玄関の外のベンチに座ってお茶を楽しむこともある。玄関にはセンサーチャイムなどなく自由な暮らしを支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回、消防署と連携で、夜勤帯と日勤帯を設定し利用者も一緒に避難訓練を行なっている。関係機関の一覧表や緊急時のマニュアルも事務所のよく見える場所に掲載し、職員の防災意識も高まってきている。災害に備えての備蓄についてはできるものから少しずつ準備されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスについては法人の栄養士が管理している。また食事や水分摂取量の一覧表に日々の記録がなされており、各利用者の状況が把握できるように支援されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活感のある玄関には水槽が二つ、金魚や近くの川から獲ってきた魚が泳いでいた。食堂・居間には季節の花が飾られており、不快な音もなく、自然の光りとやさしい照明で居心地の良い空間がつけられていた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入室させていただいた2名の方の居室は、いずれも気持ちよく片付けられており、家族の写真なども飾られていた。各利用者の使い慣れたものを持ち込み、入居後も好みや希望を活かした居心地の良い居室であるよう支援されていた。		